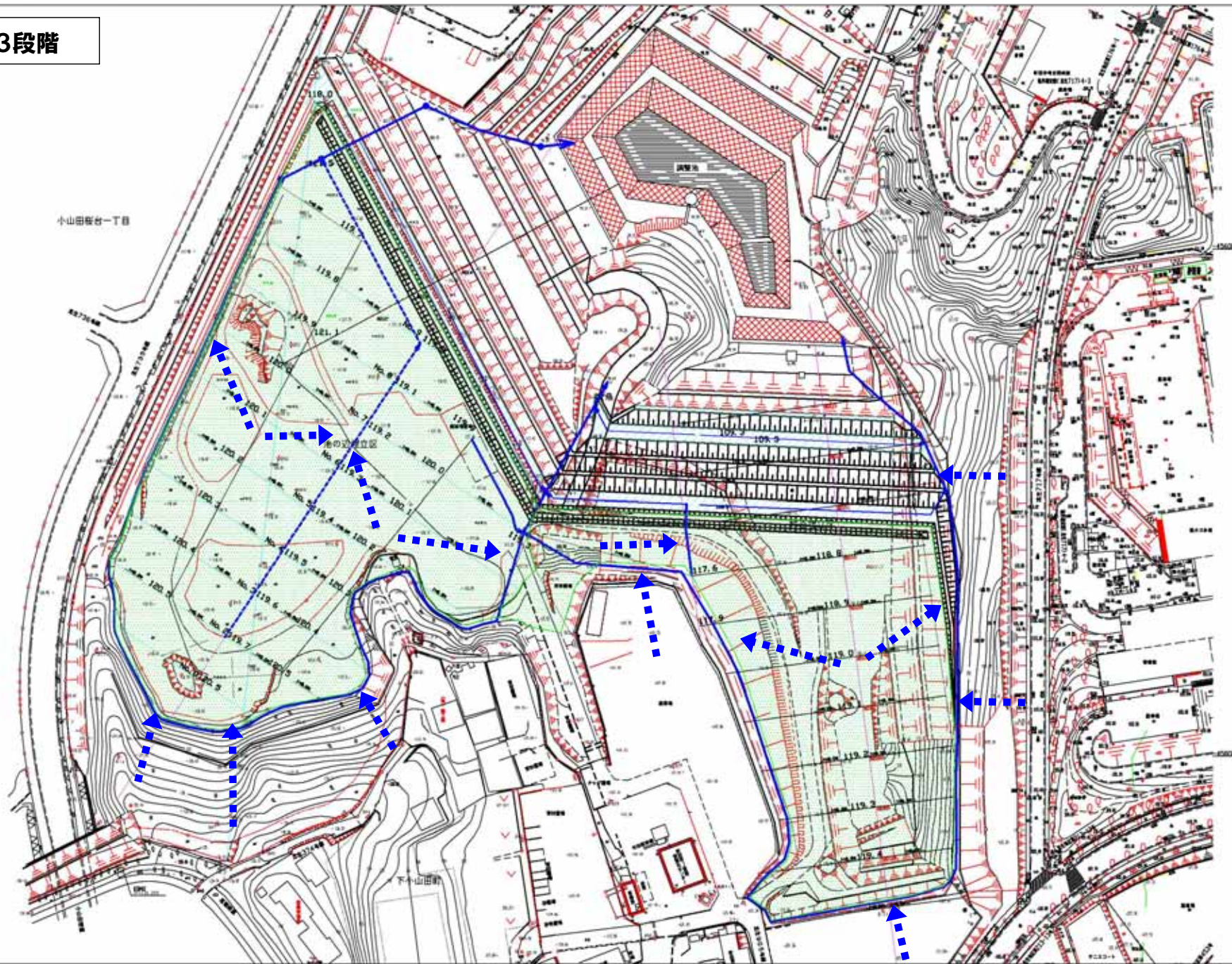
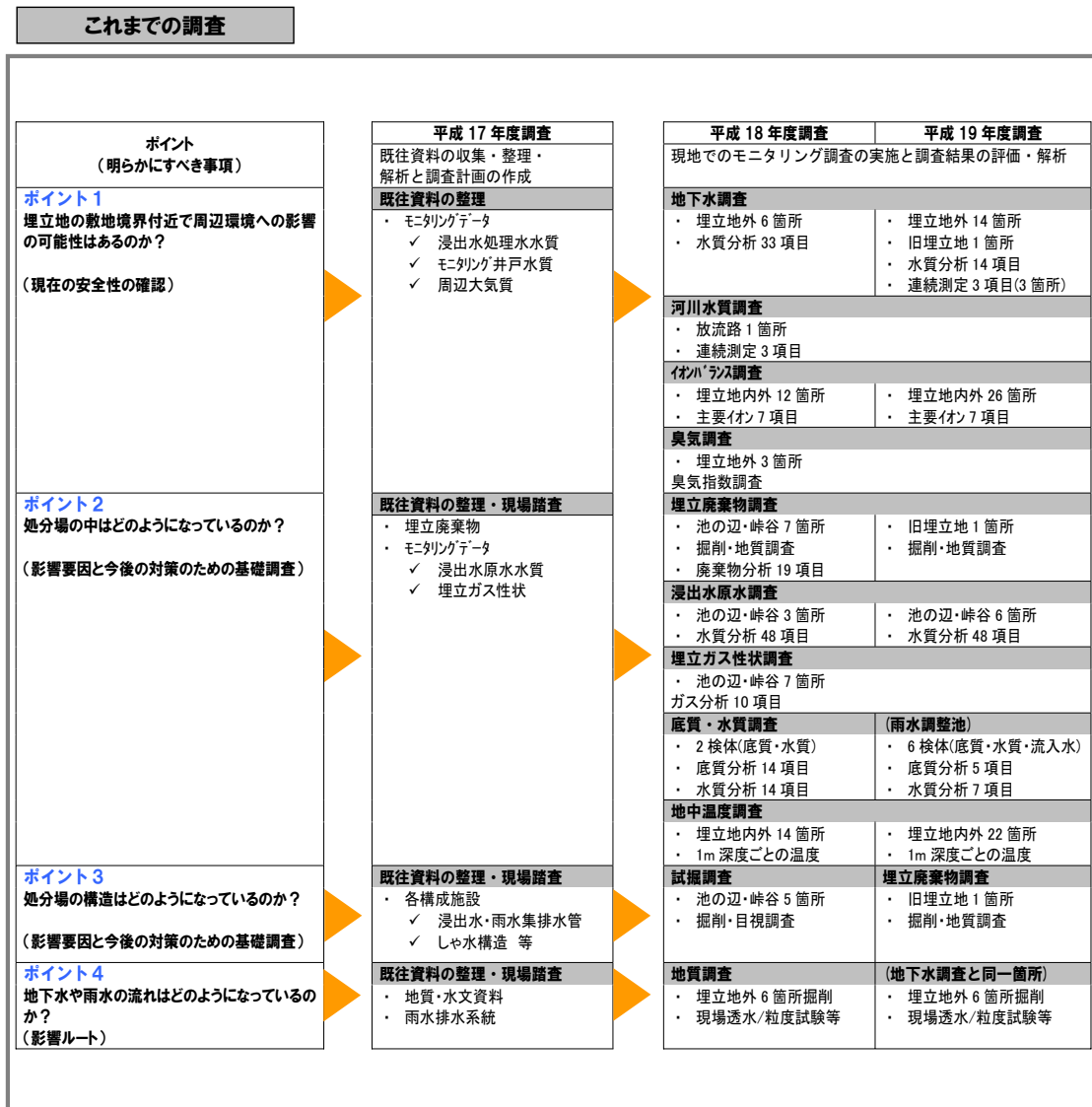


第3段階



### 3. モニタリング分析項目の選定の考え方



#### 今後の調査・分析項目の考え方

##### 視点1：埋立地からの影響を見るトレーサー

地下水の流れとともに比較的動き易い項目(トレーサーとなる項目)をモニタリングの指標として選定する。このモニタリングの指標に異常が認められた際には、詳細調査を実施する。(詳細調査では、周囲に吸着し易く動き難い重金属等の項目についても分析する。)

(例)

- ・ 基礎的な項目：pH、電気伝導率、水温など
- ・ トレーサーとなる項目：塩化物イオン、T-N など

##### 視点2：人の健康へのリスクを監視

地下水飲用のリスクを直接的に比較的簡易に分析できる項目を選定する。

(個別の項目を分析することでリスクを監視するためには、非常に多くの項目を分析する必要が生じる。そこで、毒性を直接把握するバイオアッセイを採用することで、総合的にリスクを把握する。)

(例)

- ・ 焼却灰関係のリスクを見るのに適する項目：バイオアッセイやビスフェノールA など

##### 視点3：ガスによる周辺環境への影響を監視

処分場の表層からのガスの放出の状況を把握する指標となる項目を選定する。

- ・ ガスの放出の状況を把握する指標：TVOC (室内では暫定目標値有り) など

##### 視点4：既往調査において監視を継続することが必要な項目

これまでの調査で、環境基準値を上回るなどが確認され、今後の状況を確認していくことが必要な項目を選定する。

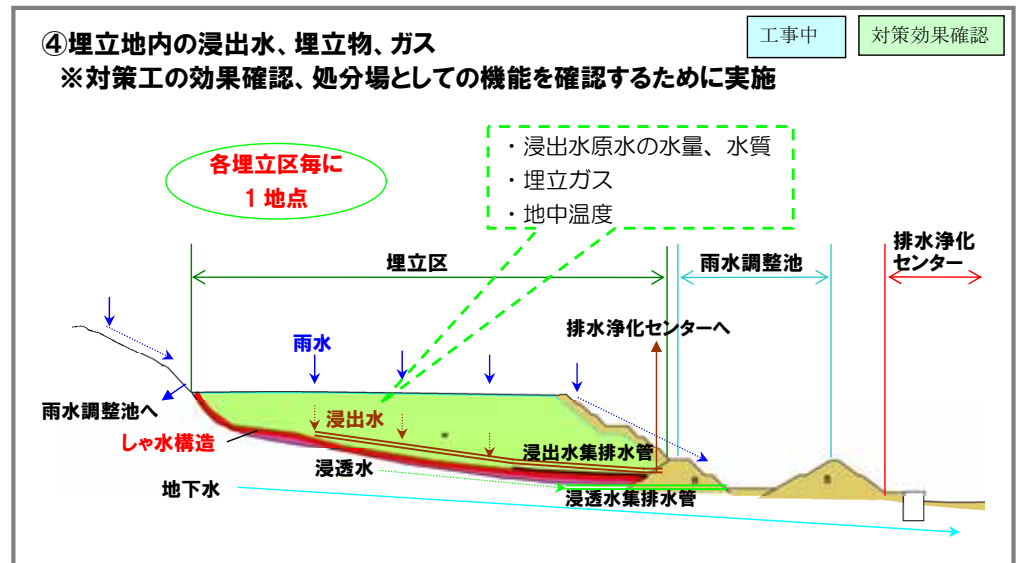
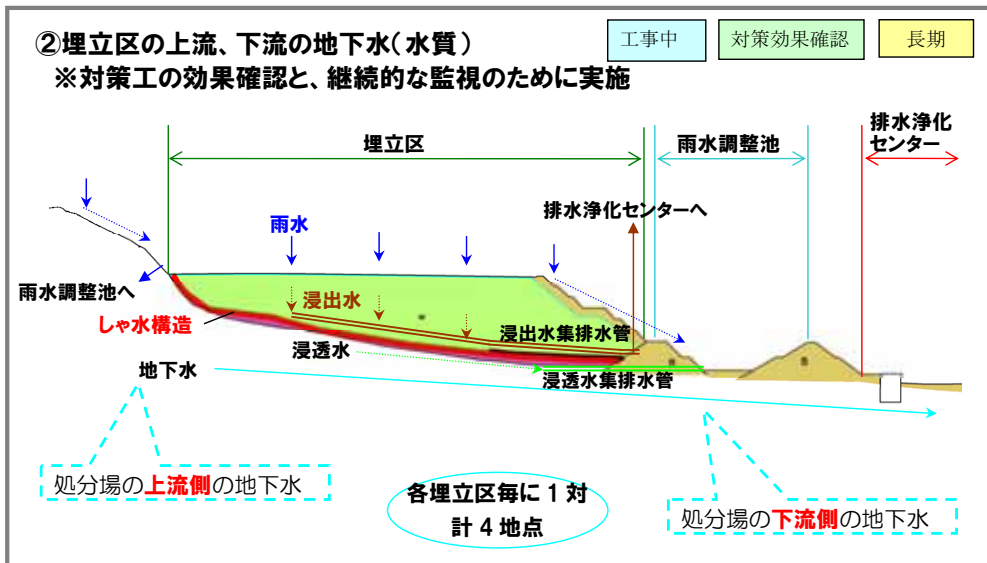
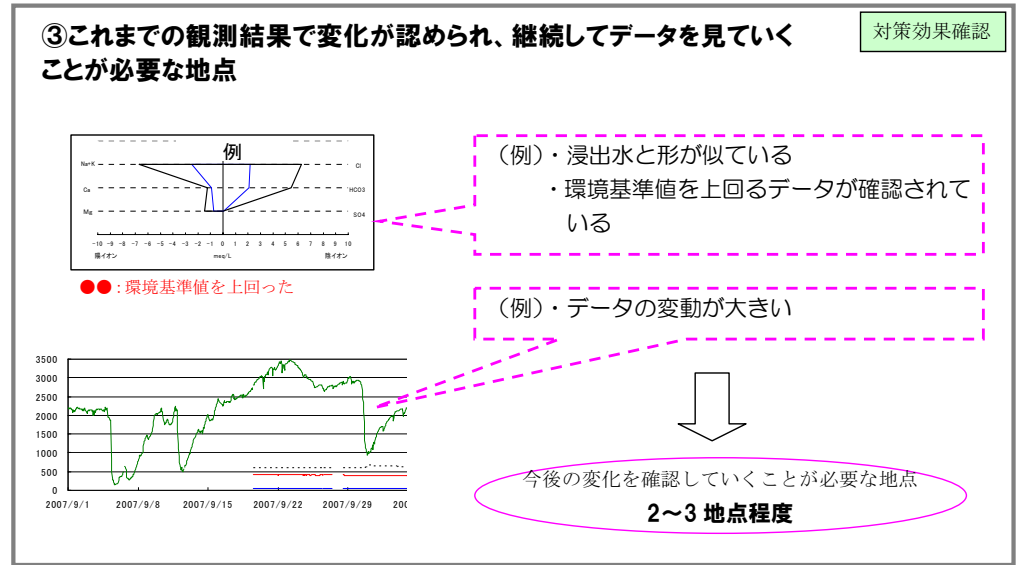
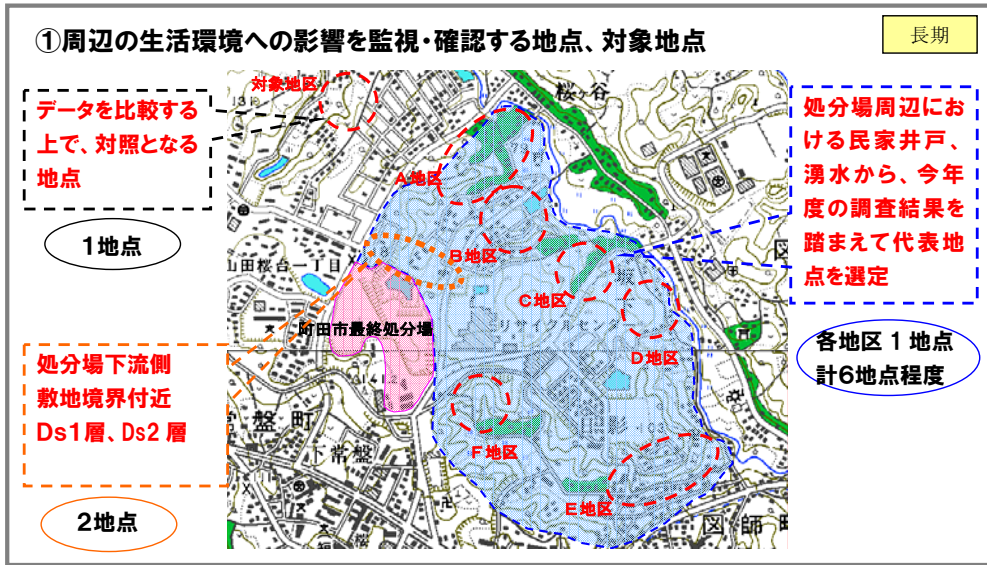
(例) 水質分析で環境基準を上回る：鉛、砒素

補足：これまでの調査で環境基準値を上回った原因は、地質由来の鉛や砒素を含む土粒子を含む地下水を分析したためであると考えられる。

##### 視点5：工事中の周辺環境への影響を監視

工事中は、敷地境界付近において、周辺環境への影響をモニタリングする項目として、騒音・振動、粉塵、排水の水質などを監視する。

## 4. モニタリング地点の選定の考え方



## 5. モニタリング計画一覧表（案）

データを見ながら、調査頻度・項目・地点を見直していく

対象	調査項目	分析項目	調査箇所数、位置	工事中	工事後 対策効果確認 (目安3~5年)	長期的な管理	データ 異常時	
観測孔	埋立地内	浸出水 原水	3箇所 池の辺：1BNo4 峠谷：TBN02 旧埋立地：KBN01（新規掘削）	・全項目 ：1回/年  ・水質計測 (pH,EC,水温,Cl) ：4回/年	・4回/年 (pH,EC,水温,Cl) ・1回/年（全項目） ※区域毎に工事完了 1ヶ月後に実施	1回/年	安定化の状況により 実施の有無を判断	
		埋立ガス				なし		なし
		地中温度						
		新規掘削						
観測孔	周辺地下水	・モニタリング項目：12項目 (pH、COD、SS、T-N、T-P、Cl、Na、K、So <sub>4</sub> 、 EC、水温、外観)	9箇所 <池の辺> ・上流：MBNo6*、MBNo7* ・下流：MBNo8*、MBNo2* ・下流側「刈ッ」井戸 <峠谷> ・上流：MBNo12* ・下流：MBNo11*、MBNo9* (MBNo2,下流側「刈ッ」井戸) <旧埋立地> (・上流：MBNo12) ・下流：MBNo13	・全項目 ：1回/年 ・水質計測 (pH,EC,水温,Cl) ：4回/年	・4回/年 (pH,EC,水温,Cl) ・1回/年（全項目） ※区域毎に工事完了 1ヶ月後に実施	1回/年	状況により実施の 有無を判断	
		・連続観測（EC、pH、水温、水位）  *を付けた6地点で実施する				1回/月		
		・リスク管理の項目 ：鉛や砒素・バクテリア（ヒスフェールAについては バクテリアで包括的にみていく）				1回/年		1回/年
周辺地区	周辺民家井戸・湧水	・水位または流量、水質（EC、pH、Cl）	8箇所程度	1回/年	1回/年	1回/年	※工事中 →工事の中断 施工法の見 直し  ※工事完了後 →詳細調査に より原因究明 を行う	
雨水 調整池	底質、池水水質、 流入水水質	・底質：ダイオキシン類、土壤環境基準の全項目 ・水質：pH、COD、SS、T-N、T-P、Cl、Na、K、 So <sub>4</sub> 、EC、水温、外観、(Pb、As、バクテ リア→来年度の試行結果から決定) ・底質埋設箇所：ダイオキシン類	・底質：1箇所 ・水質：2箇所 ・底質埋設箇所付近：MBNo11	実施無し (除去工事実施 のため)	・全項目 ：1回/年 ・水質計測 (pH,EC,水温,Cl) ：4回/年	状況により実施の 有無を判断		
全地点	イオンバランス調査	・陸水の主要イオン7項目を分析し成分比率を比較	上記の全地点：22箇所	実施しない	工事後2回	なし		
工事監視	搬入された土壌	・土砂の受入基準の全項目	・3検体程度	実施	なし	なし		
	工事時の周辺監視	・騒音、振動、粉塵、下流の水質、構造物の状況	・工事箇所周辺	4回程度 (騒音振動は 最盛期に1回)	なし	なし		
整理評価他	報告会補助	・報告会資料作成、報告会補助、会議記録作成	全地点	2回	2回	1回		
	結果整理、評価	・モニタリング結果整理、評価、とりまとめ	全地点	4回	4回	1回		
埋立地全体 の水収支	池の辺埋立区	・流量を計測	・集排水管1箇所	1回/月	1回/月	状況により実施の 有無を判断		
	峠谷埋立区	・流量を計測	・既往設備					